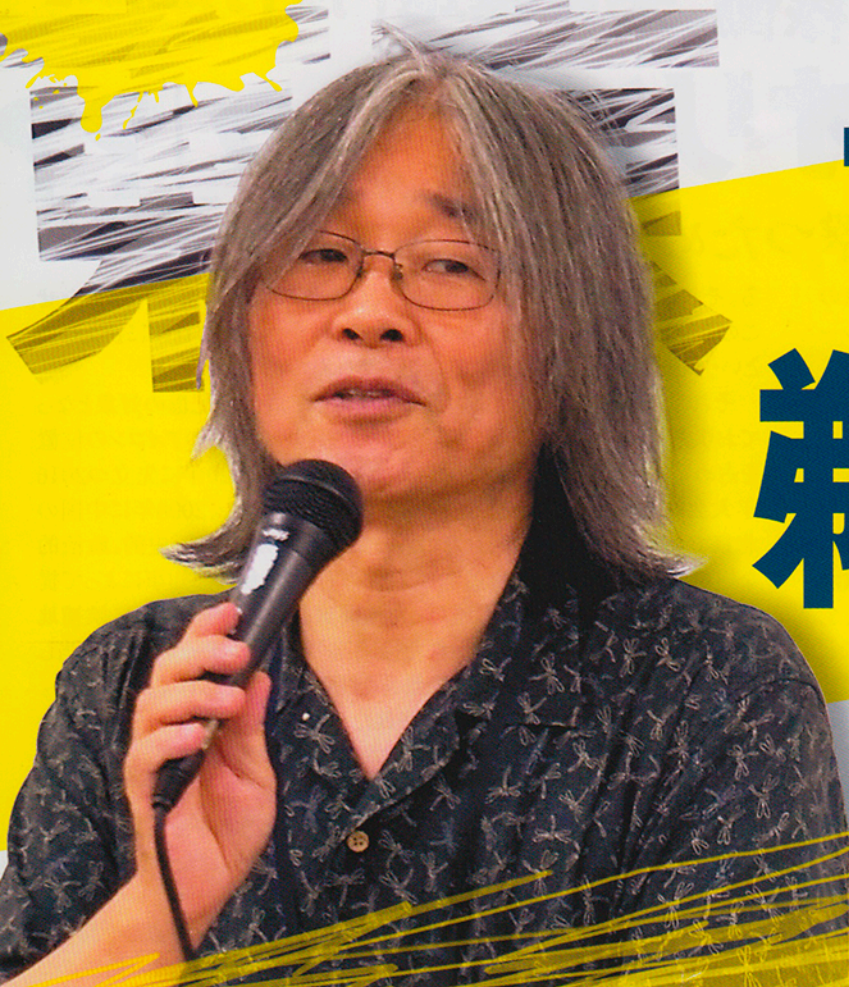


原発あかん・橋下いらん・弾圧やめて!



# 12・11 鶴飼哲 講演会

2016  
**12月11日** 開場 12:00  
開演 13:00  
終演 17:00

※第1部と第2部の途中に30分の休憩と喫茶軽食(実費)あり。  
開場後1時間と講演会終了後30分間は、  
会場とロビーにてご自由に交流なさってください。

大阪市立  
**天王寺区民センターホール**

大阪市天王寺区生玉寺町7-57  
☆地下鉄谷町線「四天王寺前夕陽ヶ丘駅」下車  
1号・2号出口から北へ100m



**第1部 13:00~14:30**

辺野古と高江で、今  
何が起きているのか?!



大湾宗則



スタンダップ・コメディ  
ナオユキ



原発事故特別報告  
おしどりケン・マコ

◎他、各戦線と闘いのアピール、福島報告、等々。

**第2部 15:00~16:30**

鶴飼 哲

**オリンピック・ファシズムと闘う**  
~3・11の後、いま、私たちはどこにいるのか~

フクシマと結ぶ 音の力いのちの言葉 (Vol.10)

■入場料は徴収しません。事前に「参加協力券¥1,000」をお買い求め下さい。(申込方法は裏面に。)

■主催・問い合わせ

実行委員会/コラボ玉造 [TAMAZO] 気付け



〒543-0013 大阪市天王寺区玉造本町 8-18 酒井ビル I 203号室  
T&F 06-6763-0211 / メール tamazo@fanto.org / 携帯090-8146-1929

■後援

新聞「うずみ火」  
(財)ワンコリア・フェスティバル  
抗路舎

# ええかげんにせえ!!

## 地震、津波、原発事故、再稼働、米軍基地「強行建設」

# …拳げ句の果てに「オリンピック」??

## オリンピック・ファシズムを迎え撃つために 鶴飼 哲

異常な事態はすでに2012年に始まっていた。この年の8月20日、東京の銀座では、ロンドン五輪で二位になった女子サッカーチームの凱旋パレードが行われた。参加者数は50万人とも言われたが、そこには間違いなく、当時高揚していた反原発運動から人々の耳目を逸らし、同時に2020年五輪招致に向けて東京都民の支持率を力づくでアップさせるという、二重の目的をもったメディアの動員戦略が働いていた。事実、都民の支持率は立候補時の47%から、最終的には70%まで上昇したとされる。

それでも、マドリド、イスタンブルとの招致合戦で、東京が勝ち残ると予想していた人は、当時はまだ少数派だった。福島第1原発の爆発事故からわずか2年、生々しい傷口からわずか200キロあまりの日本の首都に、全世界からアスリートと観客を呼び集めて一大スペクタクルを挙行しようなどという考えは、およそ現実離れした、ありえないことと感ぜられていたからだ。原発事故が収束からほど遠く、廃炉や除染の作業に多くの労働者が日々大量の被曝を被りながら従事しているときに、地震と津波で壊滅した東北沿岸部の復興工事のための資金、資材、労働力が明白に不足しているときに、数十万の被災者が将来の展望を見出せないまま困難な避難生活を強いられているときに、首都圏も放射能汚染の圏外ではなく、あちこちにホットスポットが発見されているときに、どう考えてもオリンピックどころではないという「良識の声」は、2013年の夏にはまだ、東京の外に一步出れば、世論の多数派を構成していただろう。

ところが悪夢のような同年9月7日、プエノスアイレスで開かれた国際オリンピック委員会 (IOC) 総会で、2020年オリンピックの開催地が東京に決定されたのである。投票に先立つ演説における安倍晋三首相のいわゆる「アンダーコントロール」発言については周知の通りだが、首相官邸のホームページに掲載されている翻訳によって再度想起しておこう。

フクシマについて、お案じの向きには、私から保証をいたします。状況は、統御されています。東京には、いかなる悪影響にしろ、これまで及ぼしたことはなく、今後とも、及ぼすことはありません。

これほど公然たる嘘の前で、人はともしると虚を衝かれ、息を飲んでしまう。すでに多くのことが語られてきたこの凶悪な言語行為について、ここであらためて付け加えることは何もない。問題はこの欺隔から紛れもない事実が生産されつつあること、そしてそのメカニズムを然るべく解体するためには、嘘を真実と、虚構を現実と対比して告発すること以外に、いくつかの作業が必要となることである。……

現時点で1兆8000億円と見積もられている運営費の財源すらさだかでないこの五輪の経済効果については、合理的な懐疑論がいまも優勢であ

る。それにもかかわらず、2020年東京大会の先取りされたイメージは、なぜこのような力を発揮するのだろうか？ 決定されたからには五輪に抗えないという風潮は、なぜこれほど急速に形成されたのだろうか？

それは1964年大会が過去の成功体験として集合的記憶の対象となり、経済成長期の日本が郷愁をこめて想起される際のアイコンの位置を占めていることと無関係ではありえない。そもそも2020年に先立つ2016年大会への東京の立候補は、1988年に韓国のソウル、2008年に中国の北京でオリンピックが開催されたのちの東アジアの新たな歴史的、政治的な拮抗関係のなかで、民族差別主義者の石原慎太郎都知事によって提案されたものである。当初有望だった福岡案を蹴散らして東京に候補地を引き戻したとき、アジアに開かれた福岡案のプレゼンテーションを担当した姜尚中に対し、石原が差別的な暴言を吐いた事実を忘れてはならない。隣国の首都でもオリンピックが開催された以上、東京も仲良く一回きりということは、石原の頭のなかではあってはならないことだったのだ。

それに対し安倍晋三は、すでに民主党政権下で進められていた招致計画を引き継ぎ、福島原発事故を隠蔽し、反原発運動を分断し、原発再稼働の社会的条件を整備するとともに、明文改憲に向けたナショナリズム煽動の体系的展開のための恰好のツールとして、五輪を国家レベルの戦略に組み込んだのである。とはいえ石原のアジア蔑視は、力点こそ異なるとはいえ、安倍にも共有されていることは言うまでもない。今回の招致のコンセプトに当初から含まれていた民族差別的要素は、開催決定時の都知事だった猪瀬直樹のイスラーム差別発言にも見られるように、石原の引退後も引き継がれた。……

…私たちの「情報」戦は、いまだ十分に〈組織〉されているとは言えない。それは民衆のさまざまな層が抱えているオリンピックに対する多様な異議や違和感を〈組織〉する方途が、いまだ発見／発明されるべく残されていることと並行している。さしあたり必然的なこの欠乏を見据えること、愚民政策と棄民政策が一体となった究極の「スペクタクルの政治」を迎え撃つ闘いはそこからしか始まらない。リオから私たちが引き継ぐべきは利権まみれの「聖火」ではなく、いまやグローバル・ファシズムと化した五輪攻撃と対決する、民衆闘争の国際主義的な大義である。(「反東京オリンピック宣言」より)

鶴飼 哲 (うかい さとし)

1955年東京都に生まれる。京都大学大学院文学研究科博士課程退学。現在一橋大学大学院言語社会研究科教員。専攻はフランス文学・思想、ポスト植民地文化論など。著書に「原理主義とは何か」(共著1996)『償いのアルケオロジー』(1997)、『抵抗への招待』(1997)、『国民とは何か』(共編著、1998)、『応答する力』(2003)、『主権のかなたで』(2008)などがある。

## 「12・11」実行委員会では、賛同団体、賛同人(個人)を広く募っています。

趣旨に賛同される方は下記①と同じ方法でご連絡下さい。

お申し込み方法

① 下記のいずれかの方法で、住所・氏名・電話番号と、必ず枚数をお知らせ下さい。

[振り込み用紙] 同封でお送りします。

電話 090-8146-1929 (au)

F a x 06-6763-0211

メール tamazo@fanto.org

「コラボ玉造」まで 葉書か封書

② 郵便振替口座に「12・11参加協力券 ○枚希望」とお書きになってご送金下さい。一枚につき、¥1,000です。入金を確認され次第、ご指定の住所・氏名まで郵送いたします。  
【口座番号】 00940-5-312873  
【加入者名】 企画・出版 黄土(ファント)

※事務処理の関係上、お振込みの締切は12月5日(月)とさせていただきます。それ以降は、電話・ファックス・メールでお申し込み下さい。